

うたいぼん
謡本を読んでみよう！

講師 能楽大倉流小鼓

ひさだ やすこ
久田陽春子

能鑑賞がはじめての方向けの入門講座です。

能の台本を「謡本(うたいぼん)」といいます。

平成31年1月19日(土)に行われる第28回「若手能」大阪公演の演目

「羽衣(はごろも)」を題材に、実際の演能の流れにそった解説を聞きながら、一部をみんなで声に出して読みます。

文語で書かれているために、聞き取りにくく難しいと思われがちな能を楽しく理解して、能鑑賞をより充実したものにしてみませんか。

◆日時 平成31(2019)年 1月12日(土)

13:00~15:30 (開場 12:30)

◆場所 大阪市立中央図書館 5F 中会議室

(Osaka Metro 千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」⑦号出口すぐ)

◆定員 60名(当日先着順) 入場無料

◆対象 どなたでも



お問い合わせ

大阪市立中央図書館 利用サービス担当

TEL 06-6539-3303

講師プロフィール 久田陽春子（ひさだ やすこ）

能楽師 大倉流小鼓方

公益社団法人 能楽協会 正会員

1973 年生まれ

大倉流 16 世宗家 大倉源次郎および 父 大倉流小鼓方 久田舜一郎に師事。

- ・能「鞍馬天狗」子方、花見にて初舞台。
- ・1985 年 大阪能楽養入会、卒業ののち能「乱」、「石橋」を抜く。
- ・2005 年 能「道成寺」にて大阪舞台芸術新人賞を受賞。
- ・2010 年 自主公演「幸祐・陽春子 能の会」にて、能「安宅」を抜く。

全国でも数少ない公式の舞台に出演する女性能楽師として各地で活動。

また、能楽の普及および伝統芸能である能楽を守り、後世に伝えていくための活動にも力を注いでいる。

夫 寺澤幸祐は観世流シテ方、叔父 久田勘鴎は観世流シテ方、長男（拓海）、長女（杏海）も子方として各地の舞台に出演中。

第 28 回「若手能」^(※) 大阪公演の演目について

羽衣（はごろも）【観世流】

三保の松原（みほのまつばら）の漁師・白龍（はくりゅう）が漁から戻ってくると、松に美しい衣がかかっています。白龍はその衣を手にとって持ち帰ろうとしますが、天女が現れ、それは私の衣ですので返してほしいといいます。しかし白龍は、返そうとせず、立ち去ろうとする。天人は、天上界の事を思い出して哀しみ、なげいています。白龍は、その姿を見て痛々しく思い、天人の舞楽を舞ってくれば衣を返す事を告げます。天女は喜び、衣を着て舞い始める。その姿は雨に濡れた花のような美しさでした。やがて天人は、富士山の高嶺に昇ってゆき、天空の霞の中に消えていきました。

参考『能楽ハンドブック[第3版]』、JapanKnowledge

(※) 若手能とは

大阪・兵庫の40歳以下の若手能楽師が企画・運営し、行っている公演
主催 / (独)日本芸術文化振興会 国立能楽堂 協賛 / (公社)能楽協会 大阪支部
後援 / 大阪府 大阪府教育委員会 大阪市 大阪市教育委員会

関連図書展示

講座の内容に関連した図書展示を行っています。こちらもぜひご覧ください。

【タイトル】能の世界へご案内

【日時】：平成30年12月21日(金)から平成31年2月20日(水)

【場所】：中央図書館 地下1階芸術コーナー